

共 通 科 目

令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名（科目の英文名）					専攻・コース	
国際コミュニケーション I A特研 (Advanced Research in International Communication I A)					共通科目	
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員	
選択	2	1. 2	前期	木 3	Chris White (Chris WHITE) E-mail chris-white@oita-u.ac.jp	

令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名（科目の英文名）					専攻・コース
国際コミュニケーションIC特研（Advanced Research in International Communication IC）					共通科目
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1. 2	前期	月 5	矢野 英子（Hideko YANO） E-mail yano-hideko@oita-u.ac.jp 内線 7725
授業の概要	英語の論文（英語圏の文化、社会、教育などに関する）を購読し、表現や構成を学ぶとともに、論文として分析する。英語と英語表現の周辺文化についての視野を広げる。				
具体的な到達目標					
目標1	英語の論文の語彙、表現、文がわかる。				
目標2	英語の論文の構造がわかる。				
目標3	英語の論文から情報を読み取ることができる。				
目標4	調べたことをまとめて発表する。				
目標5	英語でレポートを書く。				
目標6	自分の学習の進捗を把握し、計画的にレポートを進める。				
授業の内容					
1	Introduction				
2	英語論文1 購読 1				
3	英語論文1 購読 2				
4	英語論文1 購読 3				
5	英語論文1 分析				
6	レポート1 作成				
7	英語論文2 購読 1				
8	英語論文2 購読 2				
9	英語論文2 購読 3				
10	英語論文2 の分析				
11	レポート2 作成				
12	英語論文3 購読 1				
13	英語論文3 購読 2				
14	英語論文3 購読 3				
15	英語論文3 の分析				
アクティブ ラーニング	ペア、グループで確認、話し合うなど協働作業を通して理解を深める。				その他の 授業の工夫 映像や視覚資料を使って理解を深める。
時間外学 修の内容 と時間 の目安	準備学修	論文、関連資料を読んでくる。(10h)			
	事後学修	レポートをまとめていく。発表の準備をする。(15h)			
教科書	授業の際に指示する。				
参考書	授業の際に指示する。				
成 績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法				割合
	レポート1、2				45%
	最終レポート				45%
	平常点				10%
注意事項	ペアやグループで話し合う活動にも積極的に参加できること。授業中の携帯電話は禁止する。				
備考	授業形態は、状況に応じて決定する。辞書を必ず持ってくること。				
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無	○				
教員の実務経験	海外の大学、国内の他の教育機関（小学校、中学校、大学、私塾）での教育経験、福祉機関での勤務経験				
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容	それぞれの経験を学生の英語指導および授業内での学生指導に生かすことができる。				

令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名（科目の英文名）					専攻・コース	
国際コミュニケーションⅡB特研（Advanced Research in International Communication ⅡB）					共通科目	
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員	
選択	2	1. 2	前期	木 7	安田 俊介（Shunsuke YASUDA） E-mail syasuda@oita-u.ac.jp 内線 7728	
授業の概要	社会学的アプローチとはどのようなものなのかを概観するとともに、英語文献の読解力の向上を目指します。					
具体的な到達目標						
目標1	英語をつうじて社会学的思考のアウトラインを知る					
目標2						
目標3						
目標4						
目標5						
目標6						
授業の内容						
1	授業の概要とテキストの紹介					
2	Sociology as an Individual Pastime 1					
3	Sociology as an Individual Pastime 2					
4	Sociology as an Individual Pastime 3					
5	Sociology as a Form of Consciousness 1					
6	Sociology as a Form of Consciousness 2					
7	Sociology as a Form of Consciousness 3					
8	中間まとめ					
9	Sociological Perspective - Man in Society 1					
10	Sociological Perspective - Man in Society 2					
11	Sociological Perspective - Man in Society 3					
12	Sociological Perspective - Society in Man 1					
13	Sociological Perspective - Society in Man 2					
14	Sociological Perspective - Society in Man 3					
15	まとめと復習					
アクティブ ラーニング					その他の 授業の工夫	
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	毎回必ず該当箇所を予習し、あらかじめ訳文を作っておくようにしてください（2H）。				
	事後学修	授業で進んだ箇所までを、最初から通読する習慣を身につけてください（1H）。				
教科書	Peter L.Berger, Invitation to Sociology, A Humanistic Perspective, Anchor Books, Doubleday, 1963					
参考書	授業の最初に指示します。					
成績評価 及び評価 割合 の方法	評価方法				割合	
	授業への取り組み 学期末試験（筆記）				40% 60%	
注意事項	この授業ではかなりの量の英文を読むことになります。その意欲のある学生の受講を期待しています。					
備考	受講希望者は最初の授業に必ず出席してください。					
リンク						
	URL					
担当教員の実務経験の有無						
教員の実務経験						
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無						
教員以外の指導に関わる実務経験者						
実務経験を いかした教育内容						

令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名（科目の英文名）					専攻・コース
国際コミュニケーションⅢ特研（Advanced Research in International Communication Ⅲ）					共通科目
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1. 2	後期	月 6	包 聯群（Lianqun BAO） E-mail blianqun@oita-u.ac.jp 内線 7724
授業の概要	異文化コミュニケーション能力の向上を目標とする。受講生が興味のある（研究）テーマに関する文献あるいは論文を熟読したうえ、それをまとめて発表とディスカッションを行う。フィールドワーク調査と資料収集方法、論文の書き方などを習得し、分析能力を向上することが目的である。				
具体的な到達目標					
目標1	異文化コミュニケーション能力の向上を目標とする				
目標2	研究方法をある程度まで把握すること。				
目標3	ある程度までの分析能力を習得できること。				
目標4	論文の書き方などをある程度まで習得できること。				
目標5					
目標6					
授業の内容					
1	ガイダンス				
2	異文化コミュニケーションについて				
3	テーマ選定、フィールドワーク調査と資料収集方法・調査注意事項など				
4	発表とディスカッション1				
5	発表とディスカッション2				
6	発表とディスカッション3				
7	発表とディスカッション4				
8	発表とディスカッション5				
9	発表とディスカッション6				
10	発表とディスカッション7				
11	発表とディスカッション8				
12	発表とディスカッション9				
13	発表とディスカッション10				
14	研究方法・論文の書き方などのまとめ				
15	総合討論				
アクティブラーニング	課題について参考文献を調べ、予習しておくこと。課題について、それぞれ発表をし、ディスカッションをすること。積極的に発言をすること。				その他の授業の工夫 課題に関連する文献を調べ、前もって取り組んでいくこと。
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	次回学ぶ課題について文献を調べ、予習しておくこと。関係する文献もある程度まで読んでおくこと。課題を必ず完成すること。			
	事後学修	授業で議論した課題について理解しておくこと。授業で学んだ研究方法を検討し、できるようになること。授業で学んだ分析方法などをある程度までできるようになること			
教科書	特に指定しないが、必要なものをコピーして配布する。				
参考書	『多言語社会日本』（その現状と課題）。多言語化社会研究会編、三元社。2013年。				
成績評価及び評価割合の方法	評価方法				割合
	課題準備状況				20%
	課題の発表内容				50%
	課題の完成度				30%
注意事項	特になし。				
備考	受講生の要望により、具体的な内容に変更が生じる可能性がある。				
リンク					
	URL				
担当教員の 実務経験の有無	○				
教員の 実務経験	経験を活かし、授業内容を多様化して行くこと。				
教員以外で指導に関わる 実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる 実務経験者					
実務経験を いかした教育内容					

令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名（科目の英文名）						専攻・コース	
基礎法学（The Basic Jurisprudence）						教養教育科目 共通科目	
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員		
選択	2	1. 2	前期	火 7	秋山 智恵子（Chieko AKIYAMA）		
					E-mail akiyama-chieko@oita-u.ac.jp 内線 7704		
授業の概要	本講義は、法学の基礎を有さない学生が、大学院において法律関係科目を履修する際に最低限必要となる知識を修得することを目的としています。						
具体的な到達目標							
目標1	法の体系を把握する。						
目標2	法律文献を検索・収集し、その内容を整理して報告することができる。						
目標3	法制度が社会において果たす機能や問題点を指摘し、自己の見解を述べることができる。						
目標4							
目標5							
目標6							
授業の内容							
1	導入						
2	法律の制定						
3	憲法の機能						
4	行政による法律の運用						
5	司法制度改革						
6	法曹の役割						
7	裁判所の構造						
8	刑事事件の処理(1)						
9	刑事事件の処理(2)						
10	刑事事件の処理(3)						
11	民事紛争の処理(1)						
12	民事紛争の処理(2)						
13	民事紛争の処理(3)						
14	社会の中の法(1)						
15	社会の中の法(2)						
アクティブ ラーニング						その他の 授業の工夫	
時間外学 修の内容と 時間の 目安	準備学修	各受講者は、担当する事項について事前に調査し、報告のためのレジメを作成する必要があります。					
	事後学修	新聞・ニュースなどで身近な法律問題に触れ、関心を持って下さい。					
教科書	詳細は、開講時に指示します。必ず、小型の六法を持参して下さい。						
参考書	適宜、参考書を紹介するほか、資料を配布します。						
成績評価 及び評価 割合 の方法	評価方法					割合	
	報告の内容および議論への参加状況					75%	
	期末レポート					25%	
注意事項	本講義は、学部等で法学系科目を履修したことのない者を対象としています。						
備考							
リンク							
	URL						
担当教員の 実務経験の有無							
教員の 実務経験							
教員以外で指導に関わ る実務経験者の有無							
教員以外の指導に 関わる実務経験者							
実務経験を いかした教育内容							

令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名（科目の英文名）					専攻・コース	
日本の経済と経営（Japanese Economy and Management）					教養教育科目 共通科目	
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員	
必修（秋季入学者のみ）	2	1	後期	月 5	E-mail 内線	
授業の概要	秋季入学制度により入学した留学生を対象にして、日本経済や日本型経営に関する基礎的な知識や今日的な論点について理解を深めることをめざしている。					
具体的な到達目標						
目標1	日本経済の発展過程、特徴について理解する。					
目標2	「日本的経営」とは何かを理解する。					
目標3	今日の日本の経済や経営に関する基本的論点を理解する。					
目標4						
目標5						
目標6						
授業の内容						
1	ガイダンス					
2	日本の経済発展（1）					
3	日本の経済発展（2）					
4	日本の経済発展（3）					
5	日本の経済発展（4）					
6	日本の経済発展（5）					
7	中間指導					
8	日本の企業経営					
9	日本の流通機構					
10	日本の地域（1）					
11	日本の地域（2）					
12	日本の地域（3）					
13	日本の社会政策（1）					
14	日本の社会政策（2）					
15	キャリア形成支援					
アクティブ ラーニング					その他の 授業の工夫	
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修					
	事後学修					
教科書	とくに指定しない。					
参考書	授業のなかで適宜指示をする。					
成績評価 及び評価 割合 の方法	評価方法				割合	
	レポート				100%	
注意事項	この授業は、秋季入学制度により入学した留学生を対象にしたものであり、秋季入学学生は必修である。春季（4月）に入学した留学生についても、履修することが望ましい。					
備考						
リンク						
	URL					
担当教員の実務経験の有無						
教員の実務経験						
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	○					
教員以外の指導に関わる実務経験者	キャリア形成支援についての課外講義を担当する非常勤講師は、研究科OBであり、職業安定行政に長らくかかわっている。					
実務経験をいかした教育内容	キャリア形成支援についての講義では、厚生労働省外郭団体の県組織のトップとして、近年の留学生グローバル人材への求人状況や、国内・県内における具体的な就職活動のノウハウについて講義していただきます。					